トヨタネ株式会社
代表取締役社長

川西裕康氏

Hiroyasu Kawanishi

豊かさ実る、タネを

地域農家と共に歩み50年、「日本の園芸農業をサポートする専門会社の中でNo.1」を経営ビジョンに、種・苗・グリーンハウスなどの商品販売や栽培システム・環境制御技術の提案・サポートを行っているトヨタネ㈱。

同社と㈱デンソーが共同開発した「Profarm」は、ITによるハウス環境の見える化を可能にし、農業界のイノベーションとして市場から注目されている。

国内農業の健全な発展に向け地域農家と伴走しながら次世代農業に果敢にチャレンジする川西社長に、新たな農業のカタチである共同開発製品の概要や農業界の今後についてお話を伺った。

【企業概要】

トヨタネ株式会社
URL：http://www.toyotane.co.jp
〒441-8517 向草間町字北新切12-1
TEL：0532－45－4137
FAX：0532－45－4494

――創業からこれまでの歩みをお聞かせください。

川西氏　昭和43年、豊橋市、旧田原町にあった４つの種苗店が新たに出資してトヨハシ種苗㈱を設立したのが弊社のスタートです。新会社設立の主因は、同年の豊川用水開通による地域農業情勢、及び第一次農協合併による商売環境の激変が底流にあったと伺っています。設立当初は東三河地域が営業エリアの中心でしたが、今では愛知県全域、静岡、岐阜と徐々に販売地域を拡大しています。それに合わせて、全国で通用する会社として現社名であるトヨタネに変更しました。

弊社は、トマトやキャベツなどの種苗の生産と販売及び自社農場での栽培研究をはじめ、栽培システムと環境制御技術の提案・サポートを主に事業展開しています。

ハウス内で管理される苗

流行の水耕栽培にいち早くチャレンジ

――業界の変遷やトレンドを教えてください。

川西氏　近年、施設園芸では養液栽培が普及しています。養液栽培とは、土壌を使わず、生長に必要な養分を溶かした水養液で植物を育てる栽培方法です。養液栽培の主なメリットは、土作りの手間を省き、かつ精密で論理的な栽培管理ができることで、結果として農薬使用の低減や、気候の影響を受けにくい安定した生産が可能になることです。弊社はこの養液栽培で効率よく野菜を生産するために「ココバッグ栽培」という栽培システムを開発し、推奨しています。ココバッグ栽培のメリットは、基本はヤシガラ培地が入った袋を並べるだけで農作業を簡便化できることや導入コストが安価であることです。加えて、弊社が提供している環境制御関連商品を組み合わせることによって、高収量・高品質な商品の安定生産を可能にします。特に、トマトやキュウリ、イチゴは新鮮で非常においしい出来上がりになります。

ココバック栽培の様子

このように従来の土耕栽培に加えて養液栽培といった新たな栽培方法が普及する中で、農業の健全な発展を図るためには、農家のニーズ並びに実情に合わせ総合的な改良策の提案とサポートが必要であると感じています。その1つとして、多種多様な品種の苗をつくるオーダーメード苗が着目されています。弊社では「トヨタネTOP野菜苗」というネームブランドで、オーダーメード苗に対しても積極的に取り組んでいます。

お客様にあったサービスを提供

――トヨタネTOP野菜苗とはどのようなサービスなのでしょうか。

川西氏　長年の種苗販売及び研究農場で培った技術や経験をもとに高品質な苗を生産しお届けするサービスが「トヨタネTOP野菜苗」です。TOPは「Toyotane Original Plant」の略で、地域で一番（トップ）の品質を目指すという意味を込めています。近年、1つの野菜だけでも多くの品種が開発されています。そのためには、お客様のニーズに合った苗をオーダーメードで受注生産し、お客様に満足していただくことが大切です。

しかし、オーダーメード苗の生産は非常に難しく、温度や湿度、水分量といった環境の管理が大変重要です。加えて、お客様一人ひとりが求める成果物は様々で、トマトで例えるならば甘く濃厚なトマトや日持ちの良いトマトというように求められるニーズが違います。そのような多種多様なニーズに応えるために、弊社ではトマトだけでも主要品種15種以上の苗と5種以上の主要台木を取り扱っています。日々変化する苗の状態や環境に配慮し、品種の持つ力を最大限に引き出せるオーダーメード苗の生産を心がけています。

かつて苗作りは農家の重要な仕事でしたが、規模拡大を指向する農家は生産に専念したいため、苗作りを専門業者に委託するようになったのです。多種多様かつ高品質な苗の供給が要求されるため、曇天時にはナトリウムランプで補光したり、防虫ネットを始めとする病害虫対策等ハウス内外でできる対策は全て講じています。現在拡大する需要に対応するため、静岡県磐田市に新たな大規模野菜苗生産施設を建設中です。

さらに、弊社では農業用ハウスの設計施工も手掛け、丸型、屋根型、トラス型といった農家のニーズと予算規模に応じたラインナップを充実させ、栽培する作物に最適な環境を提案しています。他にも展張フィルムの交換やハウスの増改築など、多岐にわたるニーズに対応しています。

オーダーメード苗の生産で培った種・苗の特性理解やハウスの環境制御などのノウハウを生産者と共有することで、流通する作物の品質向上にも取り組んでいきたいと考えています。

磐田ナーセリー

㈱デンソーと共同開発したシステム

――そのようなハウス内環境管理の一つとして現在話題となっている「Profarm」とはどのようなシステムなのでしょうか

川西氏　「Profarm」とは、自動車部品メーカーとして世界的にもトップクラスの技術力を誇るデンソーの「農業に貢献したい」という思いから共同で立ち上げたブランドです。デンソーの技術力と弊社の栽培ノウハウを融合させることで、農家に喜ばれるシステムを提供することを目標としています。Profarmには、3つの特長があります。1つ目が「環境制御」です。Profarmの基幹となるサービスで、センサーなどで情報を収集し、ハウス内を最適な環境に保ちます。2つ目は「作業改善」です。デンソーで長年培われたトヨタ生産方式の現場作業改善のノウハウで、ものづくりの管理方法を農作業に応用した取り組みです。3つ目は「栽培相談」です。収集した栽培データをもとに生産者と話し合い、改善案をともに考えていきます。この3つの特長とともに、環境制御しやすいハウスや環境制御機器の導入、導入後の栽培までトータルサポートします。

2019年5月には、デンソー、温室・ビニールハウスのトップメーカーである大仙、そして弊社の3社で「Profarm T-cube」というハウスを発売する計画をしています。従来、経験と勘に頼っていたハウス内の換気を、気流解析と実証結果により見える化します。これにより、天窓・側窓を廃止し、強制換気によって作物に必要な風だけを創出できる仕組みを作り上げることができます。原点に立ち返り、ハウスに本当に必要な機能とは何かを考えたサービスです。

Profarm Controller

――新技術のお話もありましたが、今後農業界（園芸農業）ではどのような取り組みが必要でしょうか。

川西氏　今後、農業界がさらに発展していくためには、取り組むべきことは2つあると考えています。１つは、他業界同様、農業界でも人手不足は深刻化しているため、ITの活用による省力化を行い、効率の良い生産をすることです。もう１つは、企業と生産者がつながりを持ち、農作物の品質向上など消費者や社会に新たな価値を提案・提供していくことです。

弊社は本気で農業に取り組むプロ農家の皆さんを応援しています。諸外国に過度に頼ることなく、農業経営者や生産者のアイデアと努力によって自給率を上げ、結果として消費者に安心・安全な食料を提供したいと思います。農家の皆さんが快適に生産でき、消費者においしい農作物を届けられるようサポートし、農業界を盛り上げていきたいと思っています。